

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	全教科・領域で、子どもたちの思いや言葉をつなぐことで、子どもたちが「伝え合いたい」と思える授業づくりをする。	職員の中で、伝え合いを大切にした授業を心がけたいという意識が高まっている。伝え合いの精度を高めようと環境づくりに努めることができた。 一方で、伝え合いを大切にする授業の数を増やしていく必要がある。	B
人権教育	思いやりの心や相手意識をもち、場や相手に応えて適切な言葉遣いや行動をするために、体験的な活動や異学年交流に取り組む。	体験的な活動や異学年交流自体は充実してきているが、思いやりの心や相手意識をもった活動になっていたのかどうか、「ふりかえり」を大切にしていきたい。思うようにいかなかったりトラブルになった際に心無い言葉を言ってしまったりする場面もあるので、「言葉」を豊かにして、適切な表現を身に付けられるようにしていきたい。	B
健康教育	①「わくわく縄跳び」では、自分で運動する場と一緒に運動する相手を決定できる場を設け、運動する楽しさにつなげられるようにしていく。どこにどんな場があるのか分かりやすいように前もって提示する。 ②子どもたちの「できた」をたくさん味わえる体育学習の展開を目指す。資料を共有フォルダに入れておくだけではなく、ロイロノートにも入れ込んでいく。さらに職員間の情報確認ツールも活用し、学習カードや授業資料等を発信していく。	①「やってみたい」場を選び、異学年と関わることで楽しく運動することに繋がった。運動の内容を「縄」に限定しないことで、より運動する楽しさにつなげていく。また、ねらいを明確にしていける必要がある。 ②体育科学習を通して「できた」を味わい、自信をもつことができた。情報の発信は不十分だった。	C
自分づくり教育	・地域や外部機関(専門的)の人たちと関わる活動を積極的に設ける。 ・自分自身の成長や変容を自覚できるように、「自分づくりパスポート」や行事での「めあて」と「振り返り」を大切に指導する。	・様々な教科、学習の中で、地域の方や外部機関と関わることでできた。反面、学年により差がある。また、他学年がどのような関わりをしているか見えづらい。 ・自分づくりパスポートで、めあて＆ふりかえりができているので、成長を自覚したり、主体的な学びにつながっている。	B
いじめへの対応	「社会的スキル横浜プログラム」の活用を児童の実態に合わせて段階的に活用していく。学級風土の醸成と自尊感情を高める。「瀬谷第二小学校のやくそく」について子どもが主体的に見直しや振り返りを行い、誰もが安心して過ごせるようにする。	・「社会的スキル横浜プログラム」を児童の実態に合わせて積極的に活用し、学級風土の醸成や児童の自尊感情を高めることができた。 ・「瀬谷第二小学校のやくそく」について、子どもがより主体的に見直しやふり返りができるよう、その都度「やくそく」を指導するとともに、子どもと確かめ、誰もが安心して過ごせるような学校・学級づくりを行った。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①学年主任を中心として、学年研究会のより一層の充実を図る。週1回の学年研究会だけではなく、カリキュラムマネジメントを行い、適宜見直す機会や、教材研究の充実のための時間の確保をしていく。②月1回の主幹・教務会の他に、主幹・教務やミドルリーダーが短時間でも集まって話し合う機会を設け、全体を見通して学校運営していく。	・学年研究会では、学年の課題を常に話し合い、互いにフォローしあえたが学年研でカリキュラムマネジメントを行うことは難しかった。 ・教務主幹会は、学校運営で必要な事を意見交換できた。 ・ミドルリーダーが機能していないので次年度への課題。メンター研の見直しも必要である。	B
特別支援教育	困っている子への支援の充実と併せ、困っていることを適切に表現できない、表現し切れていない子どもに目を向け、教職員のスキルアップ、外部機関との連携を図りながら、その困り感をアセスメントし、適切な指導支援につなげていく。	・COが専門的な知識を使って、中心となり、学年主任とつながり複数の目で見ることができた。 ・研修や特別支援日より等で、指導の見直しを意識している様子が見られた。 ・個別支援級の支援を、一般級の各クラスにも取り入れた。 ・教師によって支援の充実が変わらないように、教師の底力を上げていきたい。 ・学級担任として進んで動けなかった。	B
地域学校協働活動	①学校運営協議会を通して、地域・保護者や学校が目標をしっかりと共有し、育成したい子どもの姿を明確にする。さらに、地域の方々と地域コーディネーターの方と連携し、教育活動の中で地域や保護者とともに学ぶ機会を上げ、子どもたちから「地域とつながりたい」という思いをもてるようにしていく。②保護者ボランティアを積極的に活用したり、授業参観・学校だよりやホームページ、子どもを通しての発信を行ったりして、子どもだけではなく保護者も、学校・地域・保護者とのつながりの大切さをより感じられるようにしていく。	・夏に開催した学校運営協議会では全教職員が参加し、目指す子どもの姿について共有することができた。 ・児童から地域とのつながりをもちたいという思いが持てるような活動を具体的に検討が必要。 ・教職員や児童は地域とのつながりを感じられていたが、保護者からは見えにくい為、学校からホームページ、学校だよりの発信が必要。	A
情報教育	一人一台端末の扱い方や情報モラルを共通理解し、子どもが問題の発見・解決等に向けてICT機器や情報技術を効果的に活用できる力が身に付くよう、授業実践の発信や情報共有をしていく。	・操作方法、基本的な情報モラルは確認できた。 ・ロイロノートを活用することができた。 ・計画的な指針がないため、各学年でどのような力を身に付ければよかったのかが分からなかった。 ・授業実践等を発信することができなかった。	C
ブロック内評価後の気づき	・授業研究会や小中ブロックサポート事業を重ねていく中で、教職員の資質・能力の向上を図れた。来年度以降も中身の工夫・改善を繰り返すよりよいものにしていく。 ・今年度から児童生徒交流日の内容の見直しを行った。中1ギャップを少しでも抑えられるような取り組みを、小中で連携し模索していきたい。児童生徒の活動を通して、リーダーの育成と達成感を味わえるような行事になるように努めたい。		
学校関係者評価	・児童が主体となって行事を進めていることを感じる。特に周年行事では、「わくわく60」のめあてに向かって地域とつながり、児童主体の温かい手作りの記念行事だった。また、校外学習では、お互いを認め合い、温かい雰囲気の中で学んでいる様子がとても良かった。・学校運営協議会では教職員と委員が対面で、目指す児童の姿を共有できた。次年度も継続していきたい。学校と地域のつながりが保護者に伝わるようにするために、お便りやHPだけでなく、ボランティアとして行事に参加すると地域とのつながりや大切さを感じられる。情報モラルについての取り組みや、目指していくものが何が見えるようにしたほうがよい。・次年度は、COが学校と地域をつなげていきたい。		
中期取組目標振り返り	各行事で自分の考えをもち、主体的に活動に取り組む児童の姿があった。授業では、伝え合いに重点を置き、主体的に学び合う授業づくりを学年が中心となって進めてきた。授業の中で考えを伝えようとする姿は増えたが、一方で、タブレット端末の使い方、情報モラル、学校のやくそく等、判断することに課題が残った。次年度に向けては、学年力を上げていく組織作りの中で、児童が主体的に伝え合う授業づくりをさらに進め、自分で判断していかれる力を身に付け、児童が「やってみたい やってみよう」という主体的な活動の中で、学校内外に発信することを体験していきたい。		

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	第二小スキルアップ研修と名付け、伝え合いのスキルについて共通理解を図る場を設けたり、研修内で学年が同じ単元について授業づくりを進めたりする。また、授業づくりで検討した内容をその翌週に公開してフィードバックを授業者が得られるようにする。		
人権教育	思いやりの心や相手意識をもって、場や相手に応じて考えて適切な言葉遣いや行動をするために、体験的な活動や異学年交流に主体的に取り組む、感じたことを発信する。		
健康教育	・目的意識を明確化し、中休み、朝スキル等の時間も有効活用した「わくわくびよんびよん」を実施する。全校の傾向として、立ち幅跳びが横浜市の平均と比べて低い。そこで「わくわくびよんびよん」として、長縄・短縄・リズムジャンプなどを取り入れ、「跳ぶ力」を育てていきたい。		
自分づくり教育	・意図的且つ教員の思いや工夫で、地域の方・外部機関と関わることを続ける。そうすることで、子どもからの「かわかりたい」を引き出せるようにする。 ・次年度も継続したいかわかりは、年間指導計画に追記し、必ず引き継ぐ。		
いじめへの対応	・「誰もが安心して過ごせるために」を教職員で改めて共通理解をした上で、「社会的スキル横浜プログラム」を児童の実態にあわせて活用したり、「瀬谷第二小学校のやくそく」について指導したりする。 ・「瀬谷第二小学校のやくそく」について、子どもたちが自分事としてとらえていけるよう、子どもが主体的に見直しやふり返りが行える機会を定期的に設けていく。		
人材育成・組織運営(働き方)	・教材研究時間の確保のために、会議の持ち方、行事の精選をする。 本校の実態に合わせたカリキュラムマネジメントを教務主・幹会が行い、R9に向けて検討・検証する。 ・教職員が教材研究に充てられる時間を確保する必要性を理解し、日々の業務を見直す。 ・学年主任会、ミドルリーダー会を不定期で行う。校内の情報共有し主任が連携し問題解決していく力を育成する		
特別支援教育	・特別支援委員会の専門的な知見を生かして、COを中心とした児童の「見取り」をさらに充実させていく。また、この、動きを学年主任や学級担任にも広げていくことで、学校全体の特別支援の力の向上を目指す。(支援計画・指導計画 フローチャート 見取りカードの活用の充実)		
地域学校協働活動	①学校運営協議会と、全教職員が顔の見える関係づくりをし、目指す児童の姿や学校づくりについて話し合う場を設ける。②学校説明会、授業参観、学校ホームページ、学校だより、児童を通しての発信をして、保護者も学校、地域、保護者とのつながりの大切さを感じられるようにする。 ③地域とつながる生活・総合的な学習時間等の学びの充実に向けた地域とのかかわり方を整理、実践する。		
情報教育	情報年間計画を活用して、情報活用能力や情報モラルの向上を目指す。		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
人権教育	c2		
健康教育	c3		
自分づくり教育	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
地域学校協働活動	c8		
情報教育	c9		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			